

<東北地区納税貯蓄組合連合会会長賞>

## 税によって支えられる私達の暮らし

いわき市立四倉中学校 3年 駒 帆花

現在、日本の消費税率は十パーセントである。この税率を高いと感じる人も少なくないと思う。しかし、世界と比較すると決して高くはない。ヨーロッパでは税率が二十パーセント以上の国もめずらしくはないし、フィンランドでは税率が二十四パーセントもある。しかしフィンランドは、国民の幸福度が世界一位の国なのだ。税金にはどんな役割があり、どのようにして国民を支えているのか、私達は知る必要があると思う。

私は、数年前、学校の特別授業で、税について学習した。その授業では、なぜ税が必要なのか、税が何に使われているのかなどを学んだ。税は、信号機や病院、交番、学校など様々なものに使われると知った。私達の教科書も税金によって配布されているそうだ。それを知って、私は、税はとてもありがたいものだと思った。もし税がない世界だったら、救急車や交番の利用が有料になったり、医療費がすべて自己負担になったりしてしまう。税をみんなで負担することで、私達は健康で豊かな生活を送れているのだと気づいた。毎日あたりまえのように払っている税が、国民の生活を豊かにしていると思うと、税を払うのが苦にならなくなるかもしれない。

それでは、税は多いほうがいいのか。私は消費税しか払っていないので、これで考えてみる。現在の税率は十パーセントのため、百円の品物は税を入れて百十円。この税率が二十パーセントだったらどうだろう。百円の品物が百二十円になってしまう。この差は大きい。買い物をする時の負担が増えてしまう。しかし、この税金が国やそれぞれの地域の発展につながるなら、税金が増えてもいいように思える。実際、消費税率が二十四パーセントのフィンランドでは、日本にはない公共サービスがたくさんある。例えば、日本では小学校から中学校までは学費が無料だが、フィンランドでは大学院まで無料だ。また、病院で高度医療を受けても無料、さらに、育児保障や

失業保障も充実している。これは全て税金の力なのだ。つまり、フィンランドの国民は、一生を、国に保障されているということだ。だから、世界で一番幸せな国に選ばれているのだ。もちろん、税金が高ければ高いほど幸せな生活を送れるというわけではない。しかし、税金をみんなで払って、みんなが幸せと感じる生活を送れるということは、とても素敵なことだと思う。

税金は、身のまわりのあたりまえの生活を支えている。税金のおかげで成り立つものもたくさんある。私達は、そういった税金によるあたりまえの幸せを感じ、感謝しなければならないと思う。今後、日本の消費税はさらに高くなると思うが、その分日本の国民が幸せな生活を送れるような社会になることを願う。